

ポスター発表

「野犬」と言われる犬と人の関係 —国内保健所の迷い犬対策から考える—

柿沼美紀^{1)*}・古川勝也²⁾・小笠原妃名子¹⁾・鈴木かりん¹⁾・野瀬 出¹⁾

- 1) 日本獣医生命科学大学獣医学部
2) 山口県長門健康福祉センター

The ecology of free-ranging dogs in Japan —analysis based on the registration records of local health office—

KAKINUMA Miki^{1)*}, FURUKAWA Katsuya²⁾, OGASAWARA Hinako¹⁾, SUZUKI Karin¹⁾, NOSE Izuru¹⁾

緒言

地球上の犬の 7 - 8 割の犬は特定の飼い主に属さないが、人に食資源を依存する、free-ranging dog (FRD) であり、このような犬と人の関係は何千年も続いてきたと考えられる (Coppinger & Coppinger 2016, Kaminski & Marshal-Pescini 2014, Serpell 2016)。近年 FRD の研究はその生態、行動特性、遺伝的特性の視点から研究が行われている (例えば Beck 1972, Belo et al. 2017, Boitani et al. 1995, Cafazzo et al. 2010, Frantz et al. 2016, Paul et al. 2016)。FRD は日本にも存在し、狂犬病予防法のもと、保護の対象となっているが、その生態は詳しく調査されていない。本研究では、行政によって捕獲された犬のデータをもとに、国内の生態について調査する。FRD の研究は、動物介在教育や療法の根底にある人と犬の特別な関係を考えるための基礎的研究となりえる。

方法

対象：国内でも犬の年間保護頭数が上位の山口県の記録を分析。岩国健康福祉センター、周南健康福祉センター、山口健康福祉センター（防府支所を含む）、宇部健康福祉センター、長門健康福祉センターの収容動物情報（2017.4-2018.10）に掲載された 181 頭（♂ 105, ♀ 76）の犬。首輪などの情報があるものは飼い犬として、残りの 168 頭（オス 96, ♀ 72, 成犬 45, 仔犬 123）を野犬とし分析した。
分類：図 1 の記録カードを用いて分析した。

結果と考察

山口県で保護された犬は中型犬、短毛で、耳は垂れ耳以外が多かった。このような野犬の身体的特徴は Coppinger & Coppinger (2016) が指摘する世界各地 FRD と共通するものである。山口県では成犬および仔犬が保護されているだけでなく、餌やりが問題となっている (図 3)。Miklosi (2018) が指摘するよう

図 1 個体記録カード



図 2 保護された仔犬



図 3 餌やり禁止の看板

* 連絡先：kakinuma-miki@nvlu.ac.jp

に、この地域ではFRDが自然に繁殖し、人との距離を保ちながらも、食資源において人に依存していると言える。

山口県のFRDと人との関わりの検討は、数千年前

から維持されてきたと言われる人と犬の関係の起源や、犬の「人の気持ちを惹きつける」特性について考えるために重要な役割を果たすと思われる。